

ゆめ工房

Vol. 7

“ゆでがえる” になるな

- ◇ この言葉は、私が教師になって6年目に会った校長先生から教えてもらったものです。

「ゆでがえるって何？」と思われる方が多いかと思います。私も初めて聞いたときはそうでした。この言葉は、経済界で言われているもので、次のような意味があります。

蛙（かえる）を熱湯の中に入れるとびっくりしてすぐに飛びだしてしまいます。しかし、水の中に入れると、ぷかんと浮いています。その水を火（弱火）にかけます。すると、水の温度は少しずつ上がっていきます。しかし、蛙は温度の上昇に気づかず、しばらくすると、蛙はゆで上がって死んでしまうということです。

「ゆでガエル現象」とは、このように人や組織もカエルと同じように、ゆっくりとした環境の変化には気がつきにくく、最終的に致命的な状況に至ることへの警告として使われる言葉なのだそうです。

チャールズ・ダーウィンの言葉に次のようなものがあります。

『生き残るのは、種の中で最も強い者ではない。種の中で最も知力の優れた者でもない。生き残るのは、最も「変化」に適應する者である。』

- ◇ 私の若い頃の教育界は、閉じた世界でした。世間からとやかく言われることのない聖域だったというわけです。世間は、「学校」というものを特別なものとして見てくれていました。保護者もしかりです。しかし、今はどうかというと、『地域に開かれた学校』というのがキーワードになるくらいオープンなところになりました。「学校（教員）」には、『説明責任』というものが求められるようになりました。『実績』も同様に求められるようになり、教職員評価なるものも始まっています。そんな中、すべての保護者が学校（担任）第一と考えなくなってきた時代になってきたのです。東京荒川区では完全校区自由制が始まり、学校のランクづけがスタートしたと聞きました。



これが世の中の動きです。ものすごいスピードで社会は動いています。バブル崩壊後の社会は、合併（統合）とリストラによって自分たちを守ってきたと言われています。『開かれた学校』となった今、私たちは何をしたらいいのでしょうか。

- ◇ 一番恐いのは、『今のままでいいや』というマンネリ化に陥ることです。マンネリ化は、変化に対する感度を鈍らせ、好奇心を減衰させてしまうと言われています。そこで、溢れる情報を上手く読み取る努力を個人や組織で継続していくことが鍵であるように感じました。そう思った時、「ゆでがえる」という言葉を思い出しました。そこで、具体的には、「ゆでがえるにならない」ために、何をしたらいいのかを考えてみました。

その1

社会が教育に求めていることをしっかりと知ることだと考えます。今まさに学習指導要領が改訂されました。今回の改革は、明治の学制、戦後の教育改革に継ぐ『第3の改革』と言われているくらい、大きな改革らしいです。教育に求められているものが強烈に打ち出されてきています。そんな中で、自分は何をすべきかをしっかりと考え、それらを実行に移すことが大事ではないでしょうか。そのために、先日公示された学習指導要領の解説を読み解くところから始めませんか。それが、子どもたちを変えることにつながり、自分たちの考えを新たにすることにつながります。

その2

先生方の実践の引き出しをできるだけ多くしていくべきではないかと考えています。目の前にいる子どもたちは常に変化しています。一人ひとりが違います。いつも以前やった方法が通用するとは限りません。その変化に対応するには、多くの実践を持ち、必要に応じていろいろな取組ができるようにアレンジできる力を身に付けておくことが大切だと思っています。そのためにもっともいい方法は、お互いの実践情報を交換し合うことです。情報を交換し合う中で、汎用的な実践が見えてきます。

今、『ゆでがえるになるな』という言葉の意味を、改めて考えているところです。

文責 スギタ